

豊岡市多文化共生推進プラン（概要版）

2021～2025

プラン策定の趣旨

本市は、障がいの有無、性別、年齢差、国籍のちがい、価値観・文化・習慣のちがいなど、多様な人々から成っています。このような多様な人々が、地域社会や地域経済の担い手として期待され、現に活躍する、「多様性を受け入れ、支え合うリベラルなまちづくり」を進めています。

近年の本市の外国人市民は増加傾向にあり、外国人市民を貴重な人材、コミュニティの一員として受け入れて共生し、地域の活性化につなげていく必要があります（「外国人市民」とは、国籍が日本であっても、外国にルーツを持ち、言葉、生活習慣や文化等が日本と異なる方々も包括しています）。

多文化共生施策の推進は、日本人も外国人も共にちがいを認め合い、対等な関係を築くことのできる次世代の育成にもつながります。

2019年度から実施している「外国人住民に関する調査研究」の結果も踏まえ、多文化共生推進プランを策定します。

「多文化共生」の定義

国籍や民族などの異なる人々が、互いの文化的ちがいを認め合い、対等な関係を築こうとしながら、地域社会の構成員として共に生きていくこと。

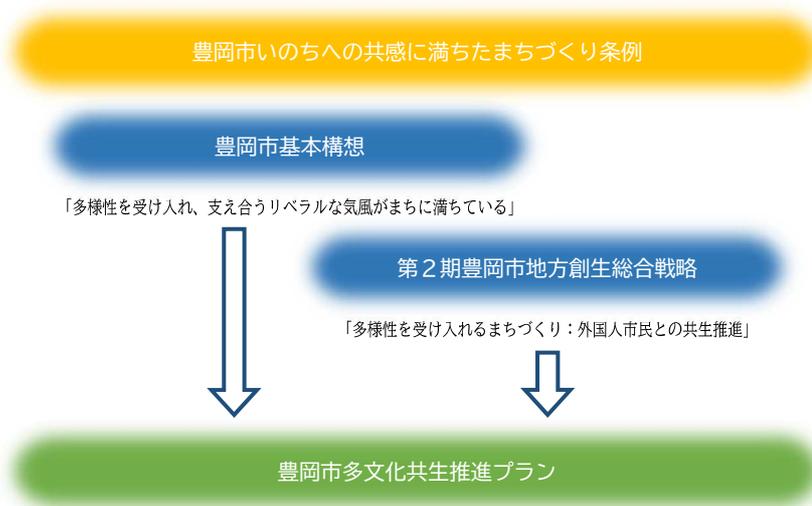
※総務省「多文化共生の推進に関する研究会報告書（2006年3月）」より

プランの位置づけと期間

「豊岡市多文化共生推進プラン」は、今後の豊岡市における多文化共生施策の指針となります。

本計画は、「豊岡市いのちへの共感に満ちたまちづくり条例」の理念のもと、「豊岡市基本構想」を上位計画として、各施策を具体的に実施するための個別計画として策定します。

なお、本プランの計画期間は、2021年度から2025年度までの5年間とします。



めざす姿と取り組み方針

めざす姿

「多様な人々が地域や職場の一員として活躍している」

長期目標を「多様な人々が地域や職場の一員として活躍している」と定め、計画期間中に「暮らしやすいと感じている外国人市民が増えている」状態をめざします。

取り組み方針

「暮らしやすいと感じている外国人市民が増えている」状態を達成するためには、ライフステージに応じた情報提供・継続的な支援と、外国人市民も活躍できるような取り組みが必要です。

豊岡市多文化共生推進プランに基づく主な事業・指標

長期目標	多様な人々が地域や職場の一員として活躍している		
戦略目的	暮らしやすいと感じている外国人市民が増えている		
	指標	基準値	目標値
	外国籍市民の5年定住率	40.5% (2020年度)	45.0% (2025年度)

主要手段 01	外国人市民が円滑にコミュニケーションをとっている【コミュニケーション支援】		
	指標	基準値	目標値
	外国人市民の日本語教室への参加人数	152人 (2020年度)	250人 (2025年度)

具体的手段	主な事業	推進主体
01-01 行政情報・生活情報が伝わっている	市役所書類の多言語化（やさしい日本語含む）	市
	やさしい日本語による広報（ごみの分別、各種手続き等）	市
	市の事業への通訳派遣	市
01-02 外国人市民の相談をワンストップで受ける体制がとれている	ワンストップ相談窓口の設置検討	市
	通訳者、相談員等人材の発掘と育成 転入（出）時にワンストップですべての手続きを済ませることができる体制の検討（庁内連携）	市、支援団体 市
01-03 日本語を学ぶ機会が増えている	日本語学習機会の充実	支援団体、市
	日本語学習ボランティアの育成	支援団体、市

主要手段 02	外国人市民が安全・安心に暮らしている【生活支援】		
	指標	基準値	目標値
	外国語通訳ボランティアの人数	34人 (2021年度)	50人 (2025年度)

具体的手段	主な事業	推進主体
02-01 外国にルーツを持つ子どもへの教育支援が充実している	来日後の日本語教育の充実	市、学校
	母語・継承語（親の母語）教育の実施	市、支援団体
	子どもたちが外国文化や学校文化を知る機会の充実	学校
	義務教育以降の若者へのサポート	学校、支援団体
02-02 安心して出産、子育てができています	乳幼児健診等での通訳等多言語対応	市
	育児中の親子が触れ合う場の提供	地域、市
02-03 安心して医療・介護サービスを受けている	消防本部三者間同時通訳サービス、救急多言語翻訳アプリの周知	市
	医療機関の多言語化の充実	医療機関
02-04 働きやすい環境が整い、働きがいを感じる人が増えている	職場での日本語学習支援	企業
	事業所支援（日本語教育、住居の紹介等）	市、支援団体
	ハローワーク等での仕事の相談充実	ハローワーク
02-05 移動手段が確保されている	公共交通機関の乗り換え案内（多言語化、ICT化）の検討	市、交通機関
02-06 住宅が確保されている	住まいの支援・情報提供	市
	外国人シェアハウスの調査研究	市、企業
02-07 災害等への備えができています	災害時における外国人支援体制（災害時多言語支援センター等）の検討	市
	防災知識を学ぶ機会の充実、避難訓練等への参加促進	市、地域

主要手段 03		外国人市民が地域活動に参画している【意識啓発と地域づくり】	
指 標		基準値	目標値
外国人市民が地域の行事に参画している行政区及び地域コミュニティの数		未計測 (2021年度)	基準値の2倍 (2025年度)
具体的手段	主な事業	推進主体	
03-01 お互いの文化、生活習慣のちがいを認め合っている	外国人市民、外国文化・宗教の紹介（市広報・出前講座等）	市、支援団体	
	地域での国際理解教室の開催	地域、支援団体	
	日本の文化、豊岡の文化を学ぶ機会の創出	地域、市、支援団体	
03-02 気軽に交流できる居場所や機会が増えている	子育て支援総合拠点での交流事業開催	市	
	芸術文化観光専門職大学と共催イベントの検討	大学、市	
	気軽に集まれて相談できる居場所づくり	支援団体、地域	
03-03 地域、地区住民とつながりができている	地域の仕組みを知る機会の創出（地区や子ども会等）	地域	
	外国人雇用事業所と地域との交流事業	企業、地域	
	地域行事への参加促進	地域	
03-04 外国人市民が主体的に活動している	外国人ボランティアの育成	支援団体	
	外国人市民が大学、地域等で講義する機会の創出	大学、市、支援団体	
03-05 多文化共生を推進する人材が育っている	市役所と外国人市民ネットワークとの連携	市、支援団体	
03-06 留学生が地域と交流している	芸術文化観光専門職大学との連携	大学、地域、市	

プランの推進に向けて

関係機関等との連携・協働

関係機関やNPO法人等支援団体と連携し、協働して事業を進めます。

また、本プラン推進のため、「(仮称)多文化共生推進会議」の設置を検討するとともに、外国人市民の意見を聴く機会を持ちます。

市役所内での横断的な取り組み

庁内の情報を共有し、連携して本プランを推進するため、関係課により構成する連絡会議を設置し、進捗状況の把握と事業推進を図ります。



豊岡市の外国人市民※の状況（出典：住民基本台帳）

※この項目で用いる統計上の「外国人市民」とは、国籍が日本以外の方を指しています。

外国人市民数・外国人比率

2021年3月末時点の外国人市民は835人で、市民全体（79,446人）の1.05%であり、人数・比率ともに増加傾向にあります。

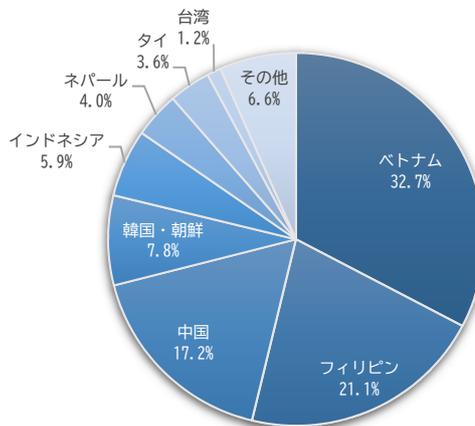
なお、男女別では男性が302人、女性が533人となっており、20歳代～40歳代の女性が全体の52%を占めるのが特徴的です。



国籍・地域別

26の国と地域出身の方が住んでいます。国籍・地域別にみると、ベトナム、フィリピン、中国の順で多く、最も多いベトナムは273人で、外国人市民数（835人）の32.7%を占めています。

外国人市民数上位5か国の推移をみると、中国及び韓国・朝鮮籍は近年緩やかに減少している一方で、ベトナム出身者の人数及び増加が顕著です。

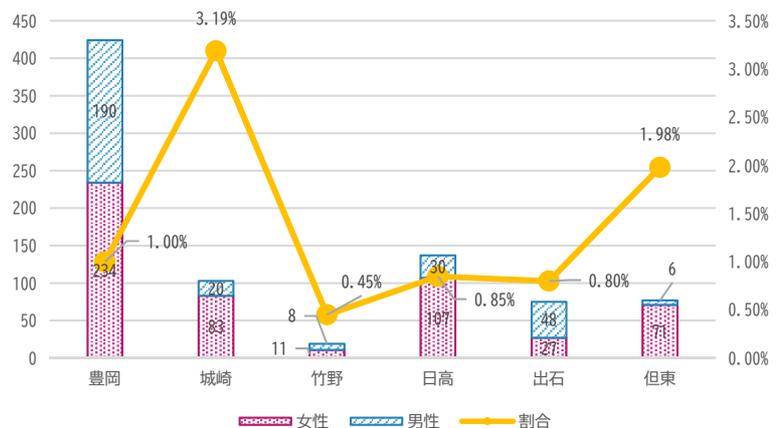


国籍	2021年3月末人数
ベトナム	273
フィリピン	176
中国	144
韓国・朝鮮	65
インドネシア	49
ネパール	33
タイ	30
台湾	10
その他	55

市内の居住状況

外国人市民の市内の居住状況を見ると、地域別では外国人市民の過半数が豊岡地域に住んでいますが、地域別の外国人比率は、城崎（3.19%）、但東（1.98%）が多い状況です。

地区別でみると、五荘、城崎、日高、豊岡の順で多くなっています。



策定 2021年9月 発行 豊岡市政策調整部政策調整課

〒668-8666 兵庫県豊岡市中央町2番4号
TEL：0796-23-1111（代表） FAX：0796-24-5932
URL：https://www.city.toyooka.lg.jp

